（様式１）

令和３年４月５日

宮津市議会議長　徳　本　良　孝　様

会 派 名　　無 会 派
代表者名　　北　仲　　篤　　㊞

政務活動費 調査研究(視察)報告書

１　視察年月日　　令和２年１１月４日（水）～１１月６日（金）

２　視察先･項目　　① 株式会社せとうちSEAPLANES（広島県尾道市）
・水陸両用小型航空機の観光
② ＴＬＢ株式会社（広島県尾道市）
・情報発信する観光施設「ONOMICHI U2」
③ 山口県山口市
・市庁舎建て替えプロジェクトの民間活用
④ ちづDeer’s（鳥取県智頭町）
・ジビエ解体施設の運営
⑤ 日田鳥獣被害対策委員会（鳥取県八頭町）
・集落ぐるみの獣害対策

３　参加者氏名　　北仲　　篤

４　経　　費　　２７，１８０円

５　添 付 資 料　　視察研修行程表・資料（別添のとおり）

政務活動費　調査研究(視察)報告書

令和2(2020)年11月4日(水) 10:00～12:00　株式会社せとうちSEAPLANES(広島県尾道市)
視察項目：**水陸両用小型航空機の観光活用**

１．視察目的・内容

広島県福山市の常石造船※１グループなどの企業経営者が中心となって、瀬戸内に新規事業と雇用を生む目的で平成24(2012)年に結成した㈱ディスカバーリンクせとうちは、古民家を再生活用する町屋宿の運営や港湾倉庫のリノベーション(ONOMICHI U2)といった「まちおこし事業」を始めた。
そして、「瀬戸内海を水上飛行機のメッカにしよう」という新たな観光ツール構想が生まれ、平成26(2014)年11月に広島県尾道市※２で常石造船㈱の持株会社と三井物産㈱が株式会社せとうちSEAPLANESを設立した。
平成28(2016)年8月、日本で半世紀振りとなる「水陸両用機」を使用した航空運送事業が始まった。

同年5月、常石グループの神原眞人 元代表から本事業をご紹介頂き、以下の通り宮津市への誘致活動を始め、今般、改めて同社を訪問した。
・平成29(2017)年8月：本事業の誘致に成功した島根県松江市を行政視察。(開業は翌年)
・同年10月：阿蘇海で測量を実施、結果は「良好」。

その後、20を超える全国の市町から「遊覧飛行」と「定期航路」開設の要望が上がり、香川県小豆島町、島根県松江市、広島県呉市(倉橋島)で就航した。
更に西日本の12空港を結ぶチャーターフライトも始め、平成30(2018)年度には約2千人の乗客を運んだ。

しかし、急速な設備投資の償却負担等に対する事業の再構築に取り組み、平成31(2019)年1月に株主が㈱丸井グループ※３の代表者に変わり、新体制で臨んできたが、令和2(20020)年3月からの新型コロナウイルス感染拡大で乗客が激減し、業績が悪化した。
令和3(2021)年2月から全てのフライトを休止し、新たな株主を募り、事業の継続を目指している。
【フライトの運休を伝える読売新聞2021年1月31日の記事】
https://www.yomiuri.co.jp/economy/20210131-OYT1T50061/

※１常石造船㈱
広島県福山市に本社を置き、1917(大正6)年の創業、バラ積み貨物船を主力とした建造量の国内ランキング４位の造船会社で、海運会社や遊園地、高級ホテル等を有するグループ会社の中核企業。(グループ発祥企業は1903(明治36)年創業の神原汽船㈱)
※２広島県尾道市
人口：134,313人、面積：285㎢［平成2(2020)年12月31日時点］
※３㈱丸井グループ
東京都中野区に本社を置き、1931(昭和6)年の創業、関東を中心に全国23店舗を展開する百貨店で、東証１部上場企業。

（1）現在の主なフライト状況及び運賃（税込）

①オノミチフローティングポート（広島県尾道市）から瀬戸内海の遊覧飛行（約30分間）
　平日：大人¥20,000.小児¥14,000.・休日：大人¥25,000.小児¥17,500.－

②なかうみスカイポート（島根県松江市）の遊覧飛行（約30分間）
　休日のみ：大人¥20,000.小児¥16,000.－

③広島空港（広島県三原市）から瀬戸内海の遊覧飛行（約40分間）
　大人・小児¥35,000.－

④香川県高松空港と香川県小豆島町のエア・タクシー（約30分間）
　平日¥250,000.・休日¥300,000.－（オープン記念価格）

⑤オノミチフローティングポート（広島県尾道市）と下記4空港間のエア・タクシー
　（料金は大人と小児の区別なし）

・広島空港（広島県三原市）：約30分・平日¥300,000.・休日¥360,000.－
・神戸空港（兵庫県神戸市）：約70分・平日¥320,000.・休日¥380,000.－
・八尾空港（大阪府八尾市）：約80分・平日¥350,000.・休日¥420,000.－
・関西国際空港（大阪府泉佐野市・泉南市）：約70分・平日¥390,000.・休日¥470,000.－

⑥西日本12空港と3海※を結ぶチャーターフライト
　※上記4空港・１海に加え、岡山桃太郎空港（岡山市）、鳥取砂丘コナン空港（鳥取市）、隠岐世界ジオパーク空港（島根県隠岐の島町）、出雲縁結び空港（島根県出雲市）、なかうみスカイポート（島根県松江市）、石見空港（島根県益田市）、高松空港（香川県高松市）、香川県小豆島町、松山空港（愛媛県松山市）、大分空港（大分市）。

○ご参考
京都新聞の令和2（2020）年11月4日（同社訪問日）の記事
「琵琶湖で水上機復活向け実証飛行へ半世紀ぶり遊覧飛行、関空～大津の移動手段にも」
https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/398633

（2）フライト体制

①保有機数：３機
　特別塗装機（愛称ラーラ・ロッサ）１機は、㈱スタジオジブリのアニメ映画「紅の豚」（1992年）をモチーフにし、宮崎駿 監督が塗装デザインの監修を無料で務め、鈴木敏夫プロデューサーは尾翼の社名を揮毫した。

②機体の概要：座席数10席（正副パイロット込み）、最大巡航速度300km/時、航続距離5～10百km（搭載重量で異なる）、離陸水距離；海上710m・陸上460m、着陸水距離；海上930m・陸上620m。

○ご参考・株式会社せとうちSEAPLANES のHP
https://setouchi-seaplanes.com/

常石造船㈱本社工場やおしゃれなレストランに隣接するオノミチフローティングポート（広島県尾道市）

特別塗装機（愛称ラーラ・ロッサ）
スタジオジブリの映画「紅の豚」をモチーフにして宮崎駿監督がデザイン。

水陸両用機の操縦席

水陸両用機の座席

常石造船グループの豪華客船「ガンツウ」
凡そ＠１泊 80 万円です。
オノミチフローティングポートに隣接する常石造船㈱本社工場に係留中。

常石造船グループの高級ホテル
「ベラビスタ スパ&マリーナ 尾道」
オノミチフローティングポート及び常石造船㈱本社工場の背後にあります。

政務活動費 調査研究(視察)報告書

令和2(2020)年11月4日(水) 14:00～15:00 TLB株式会社(広島県尾道市)
視察項目：情報発信する観光施設「ONOMICHI U2」

１．視察目的・内容

広島県尾道市※は近隣の「鞆の浦」(広島県福山市)と共に古代から港町として繁栄し、「坂の街」「文学の街」「映画の街」としても有名で、昭和の情緒が溢れる街並みは瀬戸内海屈指の観光地だ。

平成11(1999)年に四国の愛媛県今治市と本州を繋ぐ「しまなみ海道」が開通し、本州の起点として尾道市の「ウォーターフロント観光開発」と「しまなみ海道サイクリング事業」が始まり、平成26(2014)年に開業した情報発信する観光施設「ONOMICHI U2」のノウハウを学ぶべく訪れた。

※尾道市の概要
・人口：134,313人、面積：285㎢［平成2(2020)年12月31日時点］
・令和元(2019)年1～12月の観光客数：6,826千人(前年比107%)
・内、外国人観光客数：341千人(前年比103%)
・内、サイクリング客数：217千人(前年比115%)

(１)ONOMICHI U2の施設概況

本施設は太平洋戦争中に建てられた倉庫を活用し、外観はレトロな佇まいを残している。内部は倉庫特有の広さを生かして、以下７つの商業施設が入居している。
尚、本施設は「しまなみ海道サイクリングロード」の拠点としてフランスの「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」へ掲載され、米国CNNによる「世界7大サイクリングロード」にも選定されるなど国際的な人気を誇っている。

①ホテルHOTEL CYCLE
全28室あり、自転車を客室内に持ち込むことができる。
②レストランThe RESTAURANT
レモン・カキ・牛肉など地元の食材を扱う。
③パン屋Butti Bakery
こだわりの粉と天然酵母を使用。
④カフェYard Café
自転車に乗ったまま横付けできるカウンターもある。
⑤カウンターバー KOG BAR
ペダル・サドルが付いた椅子で漕ぐと電装が光る。
⑥雑貨店SHIMA SHOP
日用品とおみやげ、ONOMICHI U2オリジナル商品を多数扱っている。
⑦サイクリング専門店GIANT尾道支店
しまなみ海道の終点・今治市にも同社支店があり、レンタサイクルの乗り捨てができる。

(２)ONOMICHI U2設立の経緯

予てから尾道市は空き家になった建物の再生活動に注力し、尾道港周辺の再開発にも着手し、平成12(2000)年には尾道ポートターミナル(旅客船乗り場)を整備した。

その後、広島県の所有で尾道市が管理委託していた「倉庫」を平成24(2012)年にプロポーザル方式で民間企業から活用案を募る再開発計画を開始。
福山市の常石造船※グループなどの企業経営者が中心となって瀬戸内に新規事業と雇用を生む目的で結成した㈱ディスカバーリンクせとうちと設計事務所 SUPPOSE DESIGN OFFICE の共同提案が選定された。
そして、常石造船㈱の関連会社[現 TLB㈱]が広島県の補助金や地銀からの借入金、民間都市開発推進機構のまち再生出資を活用し、広島県から倉庫を借り受けて施設を整備し、平成26(2014)年3月に「ONOMICHI U2」が開業した。
(旧倉庫の名称が「県営上屋(うえや)2号」だったので「U2」に命名したとの由)
本事業は物品販売に留まらず、国内作業着の大半を生産する備後地区の特徴を生かした「尾道デニムプロジェクト」の推進など幅広く国内外へ情報を発信している。
※常石造船㈱
広島県福山市に本社を置き、1917(大正6)年の創業、バラ積み貨物船を主力とした建造量の国内ランキング４位の造船会社で、海運会社や遊園地、高級ホテル等を有するグループ会社の中核企業。(グループ発祥企業は1903(明治36)年創業の神原汽船㈱)

〇TLB 株式会社の HP　https://tlbinc.jp/

風光明媚な尾道の街並み

レトロな外観の ONOMICHI U2

サイクリングの専門店「GIANT」

右端の取手に自転車を吊るします

政務活動費　調査研究（視察）報告書

令和２(2020)年11月５日(木)　10:00～11:00　山口県山口市
視察項目：**市庁舎建て替えプロジェクトの民間活用**

１．視察目的・内容

　三井不動産株式会社は予てより「自治体との共同事業」※１にも注力している。
本会派は同社と定期的に情報交換を図っていて、令和２(2020)年２月に静岡県浜松市のPPP※２やネーミングライツ等の「民間活力の導入」を視察した。
今回は山口県山口市の「市庁舎建て替えプロジェクトの民間活用」について視察した。
宮津市の喫緊の課題である市庁舎※２などの公共施設の建替えと利活用に役立て度。
【山口県山口市の概要】
・人口：193,978人(令和３(2021)年１月１日時点)
・高齢化率：29.4％(令和２(2020)年３月31日時点)
・面積：1,023㎢
・令和元(2019)年度決算：一般会計の歳入914億円、市税収入273億円、
　経常収支比率95.2％、実質公債費比率5.1％
・議員数：34人(平均年齢56歳、女性２人、議員報酬449千円・議長557千円)
・職員数：1,718人(令和２年４月１日時点)　cf.ラスパイレス指数99.9％
※１　三井不動産㈱の自治体との主な共同事業
森林保全活動、廃校・公営住宅・市庁舎・トンネル等の利活用。
※２　PPP
Public Private Partnershipの略で、行政と民間が協力して公共サービスを効率的に運営すること。
※３　宮津市庁舎
本館は、京都国際会議場、広島平和記念資料館等を設計した建築家・丹下健三の門下で、旧峰山町(現京丹後市)出身の沖種郎が設計し、昭和37(1962)年に竣工した。
コンクリートむき出しで、市民に開かれた民主主義を象徴する「門」をイメージした開放的な構造は、沖種郎の個性が生かされている。
しかし、平成26年(2014)年に実施した耐震診断に於いて、構造耐震指標(IS値)は本館0.13、別館0.10で、地震発生時に倒壊の危険がある0.3を下回っている。
(IS値0.6以上は危険性が低い)

(１)山口市庁舎建て替えの経緯

　現在の市庁舎は、昭和36(1961)年から昭和39(1964)年に建てられた山口大学教育学部の校舎(鉄筋３階建て)を昭和49(1974)年に山口市へ払い下げられたもので、老朽化が進んでいる。
平成24(2012)年に耐震診断調査を実施したところ、構造耐震指標(IS値)が0.6未満だったので、平成27(2015)年度から２年間かけて耐震改修工事を実施し、現在は震度７程度の大規模地震が発生しても耐えられるそうだ。
しかし、電気・空調・給排水等の設備が老朽化し、市民窓口と執務室の狭あい化も顕著で、災害時の司令塔や防災拠点として役割を果たすには課題が多い為、平成27(2015)年に

「山口市本庁舎の整備に関する検討委員会」が設置され、その後、市庁舎が建て替えられることになった。

（2）市庁舎建て替えプロジェクトの概要

①主な組織

・山口市新庁舎整備専門会議
民間企業や学術経験者を加えて組成し、他市町の新築庁舎情報やコスト管理等を検証する基幹組織。

・山口市新庁舎の整備に関する庁内検討委員会
同市は多くの周辺町村を吸収合併してきたので、全庁的な意志を決定する組織の役割を担っている。

・山口市新庁舎整備の市民ワークショップの開催
市民の意見やアイデアを設計に生かす為、定期的に開催。

②整備方針

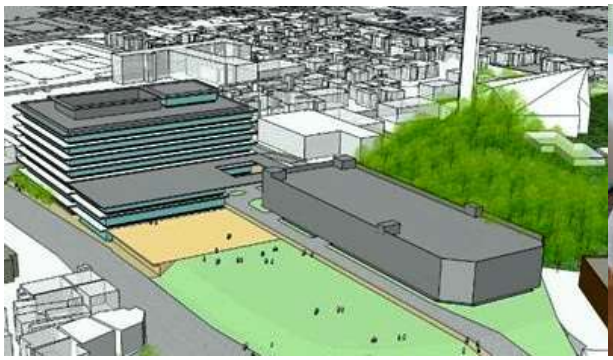
・誰もが利用しやすく、親しみのある場
ユニバーサルデザイン（国籍・年齢・性別等にかかわらず、多くの人が利用できる建築）、分かりやすい案内表示、ハイ＆ローカウンターの窓口、バリアフリーのトイレ等。

・効率的で効果的な執務空間の確保
今後更に進むOA化や人口減少による組織体制に対応できるオープンフロア、ICT技術を活用した各支所との連携、職員のリフレッシュ空間の確保等。

・安心安全への対応
大規模地震や自然災害時の対策本部機能、自家発電設備・災害物資の備蓄・避難場所としての防災拠点機能、庁舎内の防犯向上等。

・環境や景観に配慮
太陽光発電・屋上緑化・雨水利用などの環境、周辺に文教施設が集中して自然溢れる景観への配慮等。

③建設資金の積立額：約50億円
周辺町村の吸収合併する前の積立額は約28億円。



2020年8月時点の山口市新庁舎の鳥瞰図
フロアの増加は合併後の集約を想定。

市民ワークショップ」の様子
「市民の役に立つ所ーこれからの市役所の姿を描こう」というテーマで2020年6月に開催。

政務活動費　調査研究(視察)報告書

令和2(2020)年11月6日(金)　10:00～11:00　鳥取県智頭町
視察内容：ちづDeer's「ジビエ解体施設の運営」

１．視察目的・内容

少子高齢化と過疎化等が要因で、「有害鳥獣」の被害は全国各地で年々深刻化している。殊にシカは樹木の皮を剥ぎ取り、若木を食べ、森の資源を枯らす上に田畑も荒らす。
林野庁の統計では、直近約30年間でシカが10倍に増えている。
宮津市に於ける被害も甚大※１で、市議会の産業建設福祉委員会は平成28(2016)年11月に徳島県三好市の有害鳥獣対策を視察し、翌年、地元の被害状況を視察したうえで、市長へ「防護柵設置の強化」や「動物撃退器の実証実験」等の提言書を提出した。

現在、無所属クラブは無会派の北仲篤議員と「有害鳥獣対策」を積極的に取り組み※２、今般、有害鳥獣対策がトップレベルだと農林水産省から評価されている鳥取県南東部地区の中から、八頭郡智頭町の「民間によるジビエ解体施設」と八頭郡八頭町の日田地区鳥獣被害対策委員会「集落ぐるみの獣害対策」を同時に視察した。

【鳥取県智頭町の概要】

・人口：6,726人[令和3(2021)年1月4日時点]
・高齢化率：42.5%
・面積：206㎢
・令和元(2019)年度決算：一般会計の歳入6,479百万円、町税収入698百万円、
　一般会計の基金残高2,459百万円、経常収支比率97.1%、実質公債費比率10.1%
・議員数：12人(平均年齢59歳、女性1人、議員報酬229千円/月・議長330千円/月)
・職員数：232人[令和2(2020)年4月1日時点]　cf.ラスパイレス指数94.7%

※１　宮津市に於ける令和元(2019)年度の有害鳥獣対策の概況
①被害額：4,428千円
②防護対策事業費：6,139千円(侵入防止柵、狩猟免許取得の補助等)
③駆除対策事業費：13,557千円(猟友会への業務委託費用など)
④処理施設の建設：57,411千円(従来、捕獲した獣は清掃工場で焼却していたが、新清掃工場が完成し、当施設を下世屋地区に、南部の保管庫を喜多地区に作った)
⑤捕獲数(カッコ内数値は前年比)：イノシシ633頭(+19)、シカ414頭(+74)、
　アナグマ31頭(▲5)、ツキノワグマ22頭(+2)、ヌートリア20頭(+14)、サル9頭(±0)、
　アライグマ8頭(±0)

※２　無所属クラブと北仲篤議員による令和２年度「有害鳥獣対策」の取り組み
・６月、星野和彦議員が下世屋地区に完成した有害鳥獣処理施設の稼働が遅れていることや異臭問題を究明し、所管の産業建設福祉委員会で視察。
・７月、京都府船井郡京丹波町の株式会社ART CUBE 京丹波自然工房を視察。
　同社は宮津市と同じバクテリアによる「有害鳥獣処理施設」を使用し、全国の処理場に

先駆けて「国産ジビエ認証」を取得した。
動物特有の悪臭を抑える水力脱臭装置や換気施設、セキュリティなど様々なDevice（工夫･装置･策略）と猟友会の課題等を伺い、宮津市の担当部へ伝えた。

・８月、星野和彦議員が販路の拡大を目指すべく上世屋獣肉店に三信インターナショナル有限会社を紹介。
・９月、久保浩議員が「有害鳥獣対策」に関する一般質問を行った。
・11 月、日ヶ谷地区の有害鳥獣対策の「捕獲檻」を宮津市の担当者と猟友会の方と視察し、本視察で学んだ「サルを一挙に 19 頭捕獲した檻」の設置を提案。

（１）民間ジビエ解体施設「ちづDeer’s」の設立経緯

智頭町の年間の有害鳥獣被害額は 1～2 百万円で、約 1 千頭捕獲するシカは全て埋設処分していた。
平成 28(2016)年、町民が町長に政策を提言する組織「智頭町百人委員会」の獣害対策部会が中心となってジビエ解体施設の建設を要望したが、官民いずれが運営主体になるか決まらず、進展しなかった。
これを見た狩猟が趣味で地元愛の強い当時26歳の赤堀広之さんが開業に名乗りを挙げた。そして、隣の若桜町にある国内トップクラスのジビエ解体処理施設「わかさ 29 工房」でシカ肉の解体や衛生管理等に関する半年間の研修を受け、建設費用の約 19 百万円の内、12 百万円を鳥取県と智頭町が補助し、7 百万円を自己資金と借入金で賄い、平成 30(2018)年 4 月に「ちづDeer’s」を開業した。

（２）「ちづDeer’s」の運営概況

・建物：木造平屋 53 ㎡
・事業：食肉処理業（シカ・イノシシ）、年間処理数 500 頭、休業日月曜日と年末年始。
・鳥取県版 HACCP※を令和 2(2020)年 10 月に取得。厳格な衛生管理が求められ、取引先の信頼感が高まる。
※Hazard Analysis Critical Control Point の略。
原材料から最終製品に至る食品の製造工程で衛生･品質を管理するシステム。
・町内の主な取引先：山のブラン（レストラン）、楽之（ゲストハウス）、とっこ処（居酒屋）みたき園（日本料理）、小中学校の給食（月１回）
・町外の主な取引先：肉料理 Nick（鳥取市）、スペイン料理 Charo（松江市）など拡大中。
・仕入れ方法：猟友会のハンターの持ち込み。
・料理人や革製品製造職人と連携してジビエの魅力を発信する活動にも取り組んでいる。

智頭町役場

智頭町は鳥取県の南東部にあり、江戸時代に宿場町として栄えた。

智頭町の豊かな自然

93%が山林で、林業が盛んで、冬は豪雪地帯になる。

民間のジビエ解体処理施設「ちづDeer's」平成30(2018)年7月にオープンした。

施設内でオーナーの赤堀広之さんからジビエに関するヒアリング。

地元のジビエ料理店「山ノブラン」

山と川に囲まれ、地元の智頭杉を使った建築とアンティークな家具が落ち着いた空間を演出している。

智頭鹿スネ肉赤ワイン煮込みのピザと地元の無農薬野菜を使ったサラダ

東京・大阪・フランスで修業した料理人の「こだわり」メニューが豊富だ。

http://sp.raqmo.com/brun.de.la.montagne/index.php?page_id=1

政務活動費　調査研究(視察)報告書

令和2(2020)年11月6日(金)　13:30～15:00　鳥取県八頭町
視察内容：**鳥取県八頭町日田鳥獣被害対策委員会「集落ぐるみの獣害対策」**

１．視察目的・内容

少子高齢化と過疎化等が要因で、「有害鳥獣」の被害は全国各地で年々深刻化している。殊にシカは樹木の皮を剥ぎ取り、若木を食べ、森の資源を枯らす上に田畑も荒らす。
林野庁の統計では、直近約30年間でシカが10倍に増えている。
宮津市に於ける有害鳥獣の被害も甚大※１で、市議会の産業建設福祉委員会は平成28(2016)年 11 月に徳島県三好市の有害鳥獣対策を視察し、翌年、地元の被害状況を視察した上で、市長へ「防護柵設置の強化」や「動物撃退器の実証実験」等の提言書を提出した。

現在、無所属クラブは無会派の北仲篤議員と「有害鳥獣対策」を積極的に取り組み※２、農林水産省の「平成28(2016)年度 中国四国地域鳥獣被害対策優良活動」の表彰を受けた八頭郡八頭町の日田地区鳥獣被害対策委員会「集落ぐるみの獣害対策」と八頭郡智頭町の「民間によるジビエ解体施設」を今般視察した。
(鳥取県南東部地区は有害鳥獣対策がトップレベルだと農林水産省から評価されている)
殊に八頭町の「サル19頭を一挙に捕らえた檻」は、宮津市の日ヶ谷地区で猛威をふるうサル被害対策に効力を発揮することが期待される。

【鳥取県八頭町の概要】

・人口：16,684人[令和3(2021)年1月31日時点]
・高齢化率：32.0%[平成27(2015)年国勢調査時点]
・面積：224㎢
・令和元(2019)年度決算：一般会計の歳入11,466百万円、町税収入1,334百万円、全基金残高6,832百万円、経常収支比率88.7%、実質公債費比率9.3%
・議員数：14人(平均年齢60歳、女性3人、議員報酬217千円/月・議長313千円/月)
・職員数：200人[令和2(2020)年4月1日時点]　cf.ラスパイレス指数92.5%

※１　宮津市に於ける令和元(2019)年度の有害鳥獣対策の概況
①被害額：4,428千円
②防護対策事業費：6,139千円(侵入防止柵、狩猟免許取得の補助等)
③駆除対策事業費：13,557千円(猟友会への業務委託費用など)
④処理施設の建設：57,411千円(従来、捕獲した獣は清掃工場で焼却していたが、新清掃工場が完成し、当施設を下世屋地区に、南部の保管庫を喜多地区に作った)
⑤捕獲数(カッコ内数値は前年比)：イノシシ633頭(+19)、シカ414頭(+74)、アナグマ31頭(▲5)、ツキノワグマ22頭(+2)、ヌートリア20頭(+14)、サル9頭(±0)、アライグマ8頭(±0)

※２ 無所属クラブと北仲篤議員による令和２年度「有害鳥獣対策」の取り組み
・６月、星野和彦議員が下世屋地区に完成した有害鳥獣処理施設の稼働が遅れていることや異臭問題を究明し、所管の産業建設福祉委員会で視察。
・７月、京都府船井郡京丹波町の株式会社ART CUBE 京丹波自然工房を視察。
同社は宮津市と同じバクテリアによる「有害鳥獣処理施設」を使用し、全国の処理場に先駆けて「国産ジビエ認証」を取得した。
動物特有の悪臭を抑える水力脱臭装置や換気施設、セキュリティなど様々なDevice（工夫･装置･策略）と猟友会の課題等を伺い、宮津市の担当部へ伝えた。
・８月、星野和彦議員が販路の拡大を目指すべく上世屋獣肉店に三信インターナショナル有限会社を紹介。
・９月、久保浩議員が「有害鳥獣対策」に関する一般質問を行った。
・11 月、日ヶ谷地区の有害鳥獣対策の「捕獲檻」を宮津市の担当者と猟友会の方と視察し、本視察で学んだ「サルを一挙に 19 頭捕獲した檻」の設置を提案。

（１）日田集落の取り組み「出来ることを、出来る時に、できるだけやろう」
①経緯
平成 16(2004)年頃からイノシシとシカの被害が増え、農業組合法人を中心に電気柵を設置したが、捕獲檻の管理など役員の負担が増加した。
その後、益々イノシシとシカの被害が増えたので、平成 23(2017)年に表題のスローガンを掲げ、集落の皆が状況に応じて参加できる「日田鳥獣被害対策委員会」を設置した。
各人の分業も徹底し、隣接する集落とも協力して約５㎞にわたるワイヤーメッシュ柵を設置・管理するグループと箱ワナを８基設置して管理する捕獲グループに分かれて対応している。
②主な効果
・シカとイノシシを年間 30～50 頭捕獲し、食肉処理施設へ持ち込んだり、地域行事の食材として提供できるようになった。
・柵の設置や捕獲方法などの研修会への参加や開催を皆が行うようになった。
・農作物の被害が著しく減少し、全員の結束力が高まった。

（２）サル 19 頭を一挙に捕らえた檻の特徴
・八頭町の紹介で新たに設置した。
・食べ物を求めて金網の上から檻に侵入したサルは、金網の内側上部に傾斜約 30 度、長さ約 1.5m のトタンが滑って外へ出られなくなる。
・檻の内外にエサを置くこと、ミカンの木を植えて餌を補充する手間を減らす工夫も有効との由。
・檻の中で散弾銃を使って殺処分するが、サルを撃つことに抵抗感を覚えるハンターが多いとの由。

サル 19 頭を一挙に捕らえた檻　　ワナの内側

周辺の木や金網をつたって約 10m 四方･高さ約 3m の金網の上から侵入したサルは、金網の内側上部に傾斜約 30 度・長さ約 1.5m のトタンが滑って出られなくなる。檻の内外に豊富なエサを置くのもポイントとの由。

ワナの真横にある柿の木に残るクマのつめ跡　　周囲を柵で全て取り囲んだ日田集落

八頭町役場　　柿畑が方々に広がる八頭町